

平成28年度 糸魚川市社会科部 活動報告

部長 鈴木 克典

1 研究主題

「実感に支えられ、自ら学ぶ社会科学習」

2 研究の概要

本年度、糸魚川市教育研究会社会科部では、糸魚川市立糸魚川中学校において公開授業を行った。研究主題を受け、生徒が様々な立場から考察しグループの話合いを通して、思考を深めることができた。その結果、天皇の政策や社会の変化について理解を深める授業となった。

3 研究の実際

○ 授業公開・協議会、全体会指導

期 日：平成28年11月8日（火） 授業者：中川 大志 教諭

会場等：糸魚川市立糸魚川中学校

単元名：1年歴史的分野「古代国家の歩みと東アジア世界」

概 要：

授業は、平安京遷都の理由を探りながら、平安時代の政治や社会の変化について考えることを主眼として行われた。展開の視点として、平安京遷都の理由に着目させながら、グループで桓武天皇が行った政策のプラス面とマイナス面の話合いを通して、天皇の政策や平安時代の社会の変化について理解させた。はじめに、「平安時代の政治や社会について考えよう」と課題提示し、遷都の理由を問うた。続けて「何か問題があったのか」と問い掛け、平安京と平城京の地図を対比して提示した。生徒は、寺社の数が違うことを一目で理解し、平城京と平安京を見分けた。桓武天皇が僧や貴族の力を制限し親政を行うために、遷都する必要があったことを教師が説明した。そして、桓武天皇の政策について、「平安京遷都」「蝦夷の征服」「新興仏教の保護」の3点に整理した後、政策のプラス面とマイナス面を考えさせ、グループで意見を共有させた。さらに、各グループの意見を、類似点や相違点を押さえながら教師が紹介することで、生徒は様々な人々の立場から考えを深め、多面的に考察することができた。その結果、桓武天皇の政策や社会の変化の様子について理解を深めることにつながった。

協議会では、桓武天皇の政策のプラス面とマイナス面について、生徒が個人で考え、グループで話し合ったことは、多面的な見方や考え方に気付く意味で有効であったという意見が多く出された。また、遷都の理由を思考させる場面で2つの地図を対比的に提示したことや、天皇の政策を考察させる際に生徒に分かりやすい資料を提示したことが、意欲を高め思考を促す点から、大変効果的であったと評価された。一方で、ねらいと学習活動の整合性を図る必要があった、資料の読み取りや思考の時間が不足していた、全体での発表や検討の時間があるとよかったなどの意見もあった。

○ 全体会指導

上越教育大学大学院教授 志村 喬 様からご指導をいただいた。授業については、提示した地図にもう少し執着するとよい、地図への書き込みもできたなどの改善点が示された。また、生徒の考え方と変化、理由などを評価する基準が必要となること、思考は独立したものではなく、材料、枠組、学習方法がバランス良くつながった働きであること、思考が理解につながることをご指導いただいた。

4 成果と課題

歴史学習において、時代変化による相違を視覚的に示し思考を促す資料（地図）提示と、多面的な考察を促す話合い活動の工夫により、生徒の学習意欲を高め、深い思考と理解につながることが確認できた。来年度も授業公開を行い、児童生徒の深い学びの姿を目指し研究を進めていきたい。